

ときわ会新潟東支部 令和2年度

地域教育プログラム 実践記録集



地域教育プログラム集録一覧

- 1 県立新潟聾学校
- 2 県立東新潟特別支援学校
- 3 県立幼稚園
- 4 市立東特別支援学校
- 5 大形小学校
- 6 中野山小学校
- 7 木戸小学校
- 8 東山の下小学校
- 9 桃山小学校
- 10 下山小学校
- 11 牡丹山小学校
- 12 東中野山小学校
- 13 竹尾小学校
- 14 南中野山小学校
- 15 江南小学校
- 16 東新潟中学校
- 17 山の下中学校
- 18 大形中学校
- 19 石山中学校
- 20 木戸中学校
- 21 東石山中学校
- 22 下山中学校

令和2年度地域教育プログラムの取組について

特2番 県立新潟聾学校

1 育むことを目指す資質能力

県立新潟聾学校は、目指す子どもの姿として「チャレンジを続けるたくましい子」、「人や自然を愛する優しい子」、「いろいろな人と仲良くする子」を目指している。この目標を達成するために、積極的に地域教育プログラムを取組むことにより、育むことを目指す資質能力の向上を推進している。

2 教育課程への位置づけ・幼保こども園・小中連携、協働の関連と実際

○教育活動への位置づけ

当校は、地域等との関わりを大切にしている学校である。交流や地域資源の活用による教育活動を組織し、教育課程に位置付けて取り組んでいる。

○幼保こども園・小中連携・協働との連携の実際

地域の人と交流	①体育祭 ②文化祭
地域の学校と交流	①保育園居住地交流（聴覚部門幼稚部） ②東山の下小学校、桃山小学校、県立長岡聾学校（聴覚部門小学部） ③山の下中学校、長岡聾学校（聴覚部門中学部） ④特別支援学校（聴覚部門のみ） ⑤県立盲学校（各学部） ⑥県スポーツ大会（高等部のみ参加）
地域の企業等と交流	①職場実習 ②職場訪問・見学 ③図書館職員来校読み聞かせ

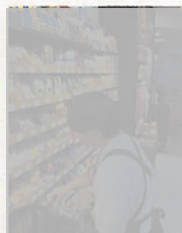
※持続可能性の保障（学力保障・学習の場の保障等）

- ・交流の中身については、力が付く良い学習の場として、常に評価と改善に取り組んだ。
- ・センター的機能を発揮し、特別支援教育の充実のために、研修会を開催するなど、県内の小中高等学校や関係機関とのネットワークづくりを進めた。
- ・これまでにお世話になっている企業や施設での実習を確保しつつ、新たな実習先や就労先の開拓を進めた。

○例年実施の様子



県スポーツ大会
(今年度中止)



職場実習
(今年度実施)



中学校交流
(今年度中止)



新潟盲学校との
リモート交流会
(今年実施)

4 成果と課題

○成果

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、可能な範囲で持続可能な形で各交流活動が進められた。（手紙やDVD録画等）
- ・学校や企業等との交流においては、たくさんの企業からご支援をいただいた。
- ・夏休みに講師を招き、「施設企業研修会」を開催し、東区の特別支援教育のネットワークづくりを推進することができた。

○課題

- ・持続可能な教育の構築（企画職員の様々な思いの継承と引き継ぎ）
- ・人材発掘と企業連携の限界（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から）
- ・企業等の学校見学会を開催し、子どもたちの頑張りなどを見ていただき、就職・就労の推進を図りたい。

令和2年度 地域教育プログラムの取組

特 17 県立東新潟特別支援学校

1 育むことを目指す資質能力

「人や社会とかがわりながら、共に生きる子」を目指し、この目標を達成するために地域教育プログラムに取り組んでいる。

2 教育課程への位置づけ・幼保こども園・小中連携、協働の関連と実際

(1) 教育課程への位置づけ

他校との交流及び共同学習や地域人材の活用などを教育課程に位置付けている。

(2) 幼保こども園・小中連携・協働との連携の実際

ア 地域の人との連携

・花と緑のパートナー事業・文化庁コミュニケーション事業・地域の方との避難訓練

イ 地域の学校との交流

・大形保育園・大形小学校・大形中学校・県立東高等学校・県特別支援学校スポーツ大会

ウ 地域の企業等の交流

・職場実習・施設見学等

3 活動の実際（中学部の活動より）

(1) 大形中学校との合同道徳授業

同世代の中学生と意見を交わしたり、思考の幅を広げたりすることを目的とし、地域の大形中学校の道徳授業にリモートで参加し、交流学习を行った。

① 事前指導

- ・交流授業の前後や学校行事の際に自分たちの学校の様子や自身のことを紹介する動画を作成し、お互いを知る機会を設ける。
- ・道徳授業で使用するワークシートに自分の意見を書き込み、自信を持って発表できるように練習をする。

② 道徳授業（交流学习）

- ・道徳授業では、相手校の班編成に混ざり、意見交換をする。
(リモートで意見交換をする)

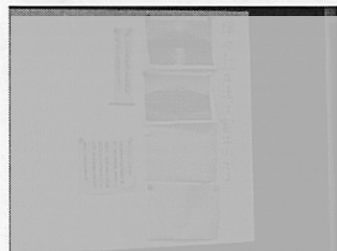
4 成果と課題

(1) 成果

- ・同世代の生徒と道徳授業を通して接し、意見交換ができたことは、生徒たちの刺激になり、思考の幅を広げる有意義な機会となった。
- ・事前学習で自分の意見をワークシートにまとめ、発表の練習をしていたことで自信を持って発表をすることができた。

(2) 課題

- ・学期に一度の交流学习だったため、トピック的な学習となってしまった。今後も継続し、生徒同士の交流を続けていくことが大切である。これからも、地域の様々な人との活動を計画的に行っていきたい。



地域の環境に関わり、社会とのつながりを意識する子どもの育成

幼1 新潟県立幼稚園

1 育むことを目指す資質能力

幼稚園教育要領では、幼稚園教育において育みたい資質・能力を「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」として示している。その資質・能力を育む指針として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が具体的に示されている。

当園では、地域の環境を活用し、その10の姿の具現化に向け、特に当園では10の姿のうちの

・健康な心と体	・協同性	・社会生活との関わり	・言葉による伝え合い
---------	------	------------	------------

に重点を置き、地域教育プログラムを推し進めている。

2 教育課程への位置付け、関連

3歳から5歳にかけての幼児は生活範囲が狭く、地域社会への関心を乏しい。しかし、幼児期から社会性の基礎を身に付けていくために、園外へ出かけ、遊びをとおして、その10の姿の具現化に向けていくことが必要である。当園において、地域と関わる教育活動は幼稚園教育課程の4歳～5歳初めの第6期～12期「社会生活とのかかわり」「自然とのかかわり」に位置付け実施している。

3 活動の実際

(1) 地域探検をしよう

幼稚園では、園の周辺環境を知るために定期的に園外保育を行っている。園児の体力的な面から行動範囲をあまり広くとれないが、周辺の遊べるところへ出かけ遊んでいる。

10月に海老ヶ瀬諏訪神社までの道程を全園児で歩き、探検遊びを行った。周辺の畑、家並み、交通標識、横断歩道等の環境に目を向けさせながら、神社を目指した。神社ではたくさんの落ち葉で遊んだり、建物を見たりして、楽しむことができた。子どもたちに幼稚園の近くには、自分たちの知らない楽しいところがあることに気付かせることができ、地域社会に目を向けさせるきっかけとなった活動であった。



(2) 新潟県立大学訪問

幼稚園に隣接する大きな建物である新潟県立大学を訪問した。敷地内に入り、建物の様子、外の様子を見て、幼稚園との違いを実感させることができた。また、敷地内に落ちているどんぐりやぎんなんを拾い、園庭以外の自然環境に触れることもできた。子どもたちが普段何気なく見ている大学の建物の中に、今まで知らなかったことがたくさんあることに気付かせることができた。



4 成果と課題

【成果】限られた範囲の環境でも、子どもたちに地域への関心を向けさせることができた。また、目的地へ向かう道程の環境を活用することで、地域の環境や公共設備等への関心を広げることができ、小学校の生活科・社会科、総合的な学習へのつながりの基礎を培うことができた。

【課題】子どもたちに周辺環境への興味関心を高め、地域とのつながりをもたせるために園外の環境素材をさらに開拓し広げる必要がある。

学校広報活動の取り組み
～地域とともにある学校を目指して～

3201 新潟市立東特別支援学校

はじめに

新潟市では、新潟市教育ビジョン第4期実施計画で、令和4年より学校運営協議会制度を導入するとしており、学校は子どもの実態を保護者や地域と共有する必要がある。

しかし、これまで当校の学校評議員会では、「地域が東特別支援学校のことを知らなすぎる。子どもの様子や学校の活動を発信して欲しい」と言われてきた。

教育ビジョンの中で、阿部隆一校長は学校教育の基盤として以下のことを掲げている。

＜「学校運営協議会制度の導入」に向けた準備・試行＞

児童生徒の成長を「地域総がかり」で支える仕組みの新制度が、当校でも2年後に始まります。学区がない私たちは、学校が「地域」に何ができるのか考え、「地域とともにある学校」づくりを試行します。

そこで、当校では、「地域」を児童生徒の住まいのある新潟市東側5区（東区・北区・中央区・江南区・秋葉区）と捉え、より広範囲に、持続的に児童生徒作品を通して学校の活動を紹介していくことにした。

1 育むことを目指す資質能力

当校教育目標「自分のことは自分でしよう」「みんなとなかよくしよう」「じょうぶな体にしよう」の達成をめざし、様々な力（※1）をつけようとする子。

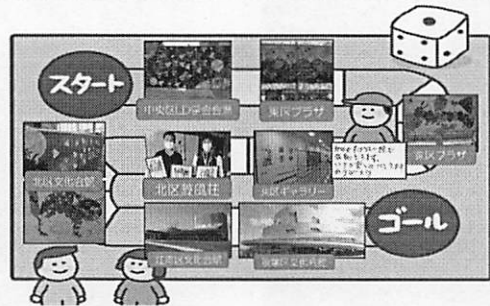
【※1 移動、食事、排せつなど日常生活を営む／清掃など家庭生活を営む／公共施設を活用するなど社会生活を営む／文字、数、色、量、記号などに興味をもち活用する／自分の意思を表現する／他者の意思を理解する／まわりの人への関心、親しみを感じる／集団活動に参加する／運動を楽しむ／体力を培う、健康に気を付ける力 など】

2 教育活動への位置づけ、幼保子ども園・小・中連携、協働との関連

年度当初に作品展示の可否を全校保護者に確認し、作品は授業で製作したものとした。

3 活動の実際

8月 3日（月）～18日（火）	東区プラザ
10月 1日（木）～29日（木）	東区ギャラリー
10月30日（金）～（常設展示）	北区菱風荘
11月10日（火）～22日（木）	北区文化会館
12月 2日（水）～18日（金）	江南区文化会館
12月21日（月）～1月29日（金）	秋葉区文化会館
1月18日（月）～29日（金）	東区プラザ
2月15日（月）～22日（月）	中央区 NEXT21



4 成果と課題(今後の取組)



ある区で「すばらしい絵で感動しています」とのコメントをいただいた。施設利用のついでに見ていかれた方が多くいたようである（11/18付の新潟日報に掲載）。今後、展示を継続していくとともに、展示した施設との交流（校外学習や出前授業、職業体験など）を進めていくことが、『地域（の生活）とともにある学校』の実現に向かっていくものと考えている。



地域愛を育むことを目指した教育実践

～第3学年 総合「知らせたいな すてきな町大形」～

1202 大形小学校

1 育むこと目指す資質能力

子どもたちが日常の生活をしている中では見過ごされている、大形地域の人・もの・ことに焦点を当て、それらを追究していくことを通し、地元の宝物に気付かせ、郷土に対する愛着の心を育てる。

2 教育課程への位置づけ

第3学年の総合的な学習の時間の授業として行う。社会科の校区探検の学習と関連させるなど、他教科との連携も図る。

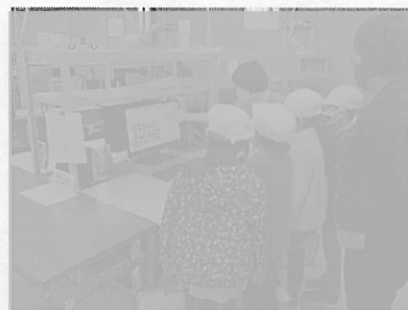
3 活動の実際

① 大形と世界

この活動では、大形小学校の校区内にある新潟県立大学の「人」に焦点を当てる。新潟県立大学には、様々な国から留学生が来ている。この事実をきっかけに、世界の国々の生活や文化に興味を抱かせ、自分の興味がある国について本やインターネットで調べていく。その中で、実際に外国の方をお呼びする機会を設け、話を聞いたり、質問をしたりする。そして、分かったことをレポートにまとめる。

② 大形お宝探検隊

活動の始めでは、社会科の校区探検の学習の際に、校区内には様々な施設があったことを思い出させる。そして、それらの施設について自分たちがよく知らないということに気付かせ、知りたいという思いを抱かせる。そこから、大形地域の特色ある施設（博進堂、阿部仏壇、県立大学等）をグループごとに訪問し、その施設の特徴や良さについて調べる。調べたことをまとめ、発表会を行い、自分たちのグループが訪問していない施設の特徴や良さについても共有し合う。最後に、それらの施設を通して、大形の地域の特色や良さについて見つめ直していく。



4 成果と課題（今後の取組）

成果としては、地域の人・もの・ことを教育に生かすことができた点が挙げられる。コロナ禍の中であっても実際に見学等ができたことで、大形地域の特色ある施設の特徴や良さについて、子どもたちの理解が深まった。課題として、「大形と世界」の活動において、県立大学の留学生の方と直接触れ合うことができなかった点が挙げられる。実際に大形に住んでいる外国の方と触れ合う中で、「大形がいろいろな国ともつながっているんだ」という意識をより強くもつことができ、それが地域愛を育むことにもつながるのではないかと考えた。

この点から、今後の取組としては、さらに、県立大学との連携を深めていく必要があると考える。具体的には、子どもたちが留学生の方から、外国の生活や文化について話を聞いたり、質問をしたりする。子どもたちから留学生の方に大形の地域の特色や良さについて伝える。このような双方向の連携を生むことによって、より地域に密着した学習になると考える。

地域への愛着を育み、自尊感情を高める地域貢献活動
～「社会に開かれた教育課程」の充実を目指して～

1203 新潟市立中野山小学校

1 育むことを目指す資質能力

当校は、新潟市の東区に位置し、地域は、昔からの住宅地域と県営・市営アパートが混在している。現在は、コミュニティ協議会などの活動が盛んで、保護者や地域の人たちは学校の教育活動に協力的である。教育目標「共に高まる子」のもと、児童は意欲的に学習し、落ち着いて学校生活を送っている。特に、仲良し班活動（異学年・異学級交流活動）は年々充実し、互いに協力して活動する姿が見られている。

一方、新潟市生活・学習意識調査等から、自己肯定感が市平均を下回る実態があった。児童に自分の力に自信をもたせ、自己肯定感を高めていくことが課題である。

そこで、当校では、児童に育みたい資質能力を、『児童が自尊感情を高め、自分の力に自信をもって生き生きと活動し、地域への愛着と誇りをもつ』と設定し、地域貢献活動の充実を図った。

2 教育課程への位置づけ、関連

3・4・5・6年生で総合的な学習の中に位置づけた。

3学年「もっとよくしたいな中野山」 4学年「誰にでもやさしい町に」

5学年「ポータチュラカの苗の植栽」「チューリップの球根植え」

6学年「石山地下道への絵の展示」「地域安全マップづくり」（※4・5学年も一緒に行った）。

3 活動の実際

第3学年「もっとよくしたいな中野山」

中野山の良さを、探検を通して発見した。商店街では、たくさんのお店を見つけて、お店の人にインタビューなどをして調査した。地域の良いところと、もっとこうすれば良くなるといった気付きをもとに、互いに発表し聞き合う活動も行った。自分たちの住む町の良さを感じ、地域への関心を高める活動になった。



4 成果と課題（今後の取組）

成果としては、児童は活動に共に参加したPTAや地域の方から、温かく声をかけられたり、褒められたりすることで、ますますやる気を増し、役に立っているという自己有用感を高めることができた。

児童に育みたい資質能力である、『児童が自尊感情を高め、自分の力に自信をもって生き生きと活動し、地域への愛着と誇りをもつ』が、地域貢献活動を通して、少しずつ高まっていると言える。

課題としては、より多くの保護者や地域の方にこの取組を発信していくことや、アイデアが認められた、生かされたという満足感を得ることである。そのことで、地域の一員であることを自覚し、より一層地域への愛着が増すと考える。



1 育むことを目指す資質能力

- ・地域を愛し、地域から愛される人間性
- ・自分のよさやできることに気付く力
- ・人と認め合い、支え合う力

2 教育課程への位置づけ・幼保子ども園・小・中連携、協働との関連
主に、生活科、総合的な学習の時間

3 活動の実際

(1) 第2学年 生活科 「チューリップの球根植え」

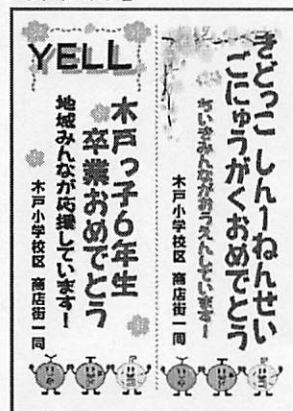
11月下旬～12月上旬に第2学年の子どもたちが学校支援ボランティアの協力を得ながら、一人一つのプランターを担当して植える。球根の向き、球根を植える場所を教員やボランティアから教えてもらった後に、一つのプランターに10個のチューリップの球根を植える。



(2) 第3学年 総合的な学習の時間「学校から地域へ 木戸っ子探検隊」

11月下旬～12月上旬に第3学年の子どもたちが木戸っ子探検隊となって、「精肉店で購入したメンチカツを食べる」「銭湯を利用する」「店員体験を行う」などを行い、木戸小学校区にあるお店のすばらしさ等を知る活動を行う。子どもたちは、お店のすばらしさを感じるとともに、地域に対する愛着をもつようになる。

3月に入ると、地域のお店と、築いた関係を生かして、右のようなポスターを道路から見えるところに掲出してもらえるように、教職員が願います。6年間学んだ卒業する6年生や4月から木戸小学校に入学する新1年生をお祝いしてくれているということを子どもたちに知ってもらい、地域でも育ててもらっているという気持ちをもつことができる。



(3) 第5学年 総合的な学習の時間「地域とのつながりを強固に」

第2学年が植えたチューリップの球根の芽が出始める3月中旬、第5学年が、学校と隣接する「中山はちのす商店街」を中心に、プランターを届け、卒業と入学を花でも祝ってもらおう。プランターを運ぶときは、学校支援ボランティアの協力を得て、行う。花の水やりなどの日常的な世話は、お店の方々から協力を得られるようお願いをする。

(4) 第5学年 総合的な学習の時間「地域とのつながりを大事にする」

新年度を迎えた4月の中旬から下旬に、ポスターやチューリップの世話へのお礼をするとともに、花が咲き終わったプランターを回収に行く。

4 成果(○)と課題(●)(今後の取組)

○子どもたちも、地域で生活する一員として、地域の方との触れ合いを通して、地域の方々への畏敬の念をもつようになるとともに、地域から大切にされていることを実感し、自己有用感の高まりが見られた。

●チューリップの球根や土の費用の工面が課題となる。



自分で問題を見付け、人々とかかわりながら追求を続ける子どもの育成

学番1205 東山の下小学校

1 育むことを目指す資質能力

- ・ 様々な方法で情報を集め、集めた情報を整理、分析する力
- ・ 自ら課題を設定し、探求的な学習を経ることで自分なりの表現でまとめる力
- ・ 地域の良さや課題に気づき、他と協力しながら解決しようとする力

2 教育課程への位置づけ・幼保こども園・小・中連携、協働との関連

令和元年度末に策定した中学校区における生活科及び総合的な学習の時間で身に付けさせたい資質・能力は以下の通りである。

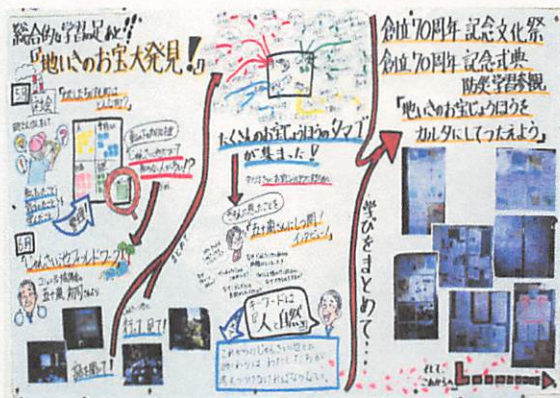
- ・ 目標を明確にし、主体的に課題解決に向かって努力しようとする力
- ・ 地域から学び、地域に貢献しようとする姿勢
- ・ 相手の立場や気持ちを考え、協力し合って活動できる力

これらは地域教育プログラムのものと大枠で合致している。これにより中学校区での継続した学びが期待できる。また、地域貢献活動の共有も確認しており、防災学習の実施や地域行事への参画もプログラムに関連づけていく予定である。

3 活動の実際

地域教育プログラム作成に向け「自分の力を役立てて地域を守る子ども」をポイントとして、生活科及び総合的な学習の時間の計画を以下のように見直した。

- 1年生…遊びを通して地域に親しむ活動
- 2年生…町探検を通して地域を知る活動
- 3年生…じゅんさい池での調査活動を通して地域の課題に気付く活動
- 4年生…老人福祉施設や企業訪問を通して地域の暮らしを見つめる活動
- 5年生…通船川での体験・調査活動を通して地域の将来を考える活動
- 6年生…地域の先輩に生き方を学び、地域貢献について志をもつ活動



学習の流れのマッピング

4 成果と課題(今後の取組)

取組の中には、予定していた活動後も地域の方との交流が進み、新たな活動に進展した例もあった。計画を見直したことにより、学校と地域の両者にとって価値ある活動がしやすくなったという手応えがある。

ただし、見直しからまだ日が浅いため、今後も実践を積み重ねる必要がある。また、学年や教職員による差のないプログラムとして確立させていきたい。

地域とのかかわりを大切にし、心豊かな子どもの育成を目指して

1206

桃山小学校

1 育むことを目指す資質能力

新学習指導要領では、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することが求められている。そして、以下のキー・コンピテンシーを昨年度に設定した。

- A 資料を正確に読み取ったり、見学してきた内容のメモを文でまとめたりすることとおして、問題関心に合わせて情報を整理・分類し、課題意識を高める力
- B 課題を解決するために、情報を数量・図形的に捉え、実験・観察も必要に応じて取り入れ、数学的・自然科学的に考える力
- C 課題を解決するために、情報を地理的性質・歴史的背景及び社会的性質から捉え、人々の願いや人の営みとしての工夫のあり方に気付き、考える力
- D 芸術（美術・音楽・文学・伝統芸能等）等表現されたものを味わい、その成り立ちや仕組みを知り、自ら模倣したり創造したりする表現活動を通して、感性を豊かにする力
- E 身体感覚を使って学び、見たり・聞いたり・触ったり・嗅いだり味わったりした五感を生かして、感覚的・身体的に表現しようという力

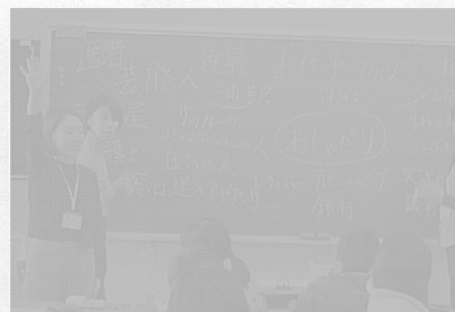
2 教育課程への位置づけ・幼保こども園・小中連携、協働との関連

各教科と生活科・総合的な学習の時間を通して、地域社会とのかかわりを広げていくようにする。地域のお年寄りとののかかわり（昔遊び・桃山の昔）や地域探検（商店等施設巡り）、火力発電所・昭和シェル石油の見学等を行って、問題解決する力や人々の願いや工夫に気付き、考える力を身に付けさせる。また、それらの成果を保護者や地域に発信する。

3 活動の実際

未来の自分へ TAKE OFF

一昨年度から2学期の総合的な学習のテーマをキャリア教育に変更し、取り組んでいるところである。自分の適性について考えたり、将来に職業について努力すべき課題について調べたりすることで、自分の将来について考えるきっかけをつくることがねらいである。NPO法人「キーパーソン21」の協力を得て、導入授業「お仕事マップ」作りの活動を通して、好きなことや興味のあることが仕事につながり、多くの職業や自分たちには可能性があることに学んだ。今年度は、コロナ禍のため、働く人を招いたり、職場に見学に行くことはできなかったが、「なりたい自分」を意識し、目的をもって自分のよさ（プライド）を高めることを目的とし、「キーパーソン21」による授業を行った。自分のよさを知り、未来の目標を明確にしていく景気とした授業である。また、今年度は、「自分のよさを知る」ための取組（キーパーソン21）を、全学年に広げていった。好きなものを見つけることにより未来に希望が持て、切り開いていく行動につながると考えている。



4 成果と課題（今後の取組）

今年度は、地域の方から学んだ機会を設定できなかったが、来年度も自分のよさを知り、新たな自分たちの発見として身に付けるだけでなく、引き続き興味をもって地域の方とのかかわったり、地域の行事に参加したりしてほしいと考えている。

今後は、地域の人材をいかにして発掘していくかが課題である。場合によっては高齢によって続けられなくなる場合があるが、より多くの人材や内容の拡充が必要である。また、他の学年の活動も含めて他教科との関連を図りながら、教科をこえて、目指す資質能力を意識して、取り組んでいく必要がある。



地域と協同する「空港のまち下山」プラン

1207 新潟市立下山小学校

1 育むことを目指す資質・能力

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2 教育課程への位置づけ、小・中連携、協同との関連

総合的な学習の各学年の主な学習内容は、以下の通りである。

3年地域 → 4年国際理解・キャリア → 5年人権・福祉・キャリア・環境 → 6年ボランティア

教育活動全体を通じて、児童の発達段階に応じた学びができるように、総合の年間指導計画を作成し、主な活動内容を明らかにしている。昨年度より、全体計画や総合の学習内容について部会を設け、共通理解を図った。

3 活動の実際

3年地域 単元名「下山の“やわ肌ねぎ”調査隊！」

下山地区で栽培されており、新潟が誇る特産物である「やわ肌ねぎ」を教材に学習を展開している。地元の生産者と一緒に植え付けや収穫を行ったり話を聞いたりする活動を通して、実際の収穫の様子や生産者の願いを理解することができた。児童が、地元の特産物として、やわ肌ねぎを大切にしていかなければならないものであると自覚する学習となった。

4年国際理解・キャリア 単元名「世界の国からこんにちは」

新潟空港の特色や役割を調べたり、外国の方や外国の知識がある方から話を聞いたりした。それによって、新潟空港が果たしている役割や、世界の国々の文化について興味をもって学習することができた。

5年人権・福祉・キャリア・環境 単元名「下山を住みよい町にするには」

東区福祉協議会の方から、「福祉とは何か？」という講話を聞いた。その後の活動で“ふだんのくらしのしあわせ”を児童自ら考え、目的を持って行動に移すことができた。今年度から、SDGs～持続可能な開発目標～をナビにして、世界や日本の課題から身近な生活にもかかわる課題は何かを話し合い、自分たちにできることを実践した。来年度の委員会活動に向けて、SDGsをクリアできる取組も学年で話し合った。



6年ボランティア 単元名「わたしたちにできること～下山地域のために～」

例年、下山地域のお店や施設に協力してもらい、6年生が地域のためにできることについて考え、実践している。令和元年度は、2度の体験を行った。1度目の体験で、お店の仕事内容や抱えている課題について話を聞き、2度目の体験で、6年生が実行できそうな取組を提案した。下山中学校へ進学しても、地域の課題を意識して取り組むことにもつながっていくと考える。

4 成果と課題

3年生は、収穫したねぎを当校の給食に使ってもらい、全校へ学習した成果を放送で伝えることができた。また、5年生は、学習参観でSDGsを活用して、時事問題が身近な取組で解決できることに気づくことができた。総合的な学習で取り組んでいることを学年で完結するのではなく、学校全体や地域・家庭にも伝えることができた。課題として、外部との連携が必要な学習活動が、新型ウィルス感染防止のために制限されていた。代わりになる活動や交流方法を模索していかなければならない。

1 育むことを目指す資質能力

- ・普段自分たちが食べている米がどのように生産されているかについて、地域の専門知識を持つ人や生産者と関わりを通して、実感を持って理解する。

2 教育課程への位置づけ

3年前から、総合的な学習の時間「地域素材を生かした学習活動」（5年生）として位置づけた。
（今年度は、田植え体験は見送った。）

3 活動の実際

（1）学校田での稲刈り体験（9月）

学校田での初めての農業体験は稲刈りとなった。JA職員と米作り農家の計3名の方から、米作り全般や稲刈りの仕方について教わり、実際に体験した。大変な作業を通して農家の人の苦労を実感したり、収穫の喜びを味わったりした。農業機械による収穫を見学し、その速さや正確さに驚きを感じた。授業で学んだことを実際に目にしたことで、実感を伴った理解となった。

体験後、これまでの調べ学習で疑問に思ったことや体験を通してもっと詳しく知りたいと思ったことなどを質問した。

（2）う米プレゼントプロジェクト（12月）

収穫した米は、「食べた人に笑顔になってほしい」「舞い上がるほどおいしいお米」という思いを込めて「う米（うまい）」と名付けた。日頃お世話になっている人に贈りたいという児童の思いから、ボランティアとして学校の様々な活動に関わってくださった地域の方に贈ることにした。

感謝の手紙とラッピングしたお米を準備し、地域の方にできる限り直接手渡した。後日、お礼の手紙をいただき、「おいしく食べてもらえてよかった」「感謝の気持ちが伝わった」と喜んでいた。

4 成果と課題

コロナ禍においてできることに制限がたくさんあったが、計画を変更しながらも農業体験を行ったことにより、実感を伴った学習を行うことができた。JA職員の方との事前打ち合わせで、児童に学ばせたいことや農家の方をお願いしたいことを細かく相談し、助言をいただいたので、限られた時間の中で有意義な体験活動を行うことができた。

また、地域の方にお米を贈る活動を行ったことで、学校生活が様々な人によって支えられていることに気づき、思いを伝えるよい機会となった。地域の方にお米を届ける際、地域教育コーディネーターの協力が不可欠であったことから、早めの計画立案や事前の打ち合わせの重要性を感じた。



第5学年 稲作活動「お米 再発見！～おいしいお米を作ろう～」

1209 東中野山小学校

1 育むことを目指す資質能力

- (1) 稲作活動において、知りたい、調べたい、伝えたいという願いをもち、様々な活動を通して、感じたことや調べたことを絵や文章などで表現することができる。＜学習方法に関して＞
- (2) 堆肥まきや田植え、稲刈り、脱穀などの体験活動を通して、米作りの過程を知るとともに、それらの喜びや大変さを味わうことができる。＜自分自身に関して＞
- (3) お世話になった地域の指導者との収穫祭を通して、収穫の喜びや感謝の気持ちを伝え、身近であるお米との関わり方について、自分でできることについて考えることができる。＜他者との関わりに関して＞

2 教育課程への位置付け

総合的な学習の時間	他教科との関連
1 お米はどうやってできるの？	社会「住みよいくらしと環境」 社会「農業の盛んな地域を訪ねて」 国語「資料を生かして考えたことを書こう」
2 田んぼを観察しよう	
3 田植えにチャレンジ	
4 お米についてまとめよう	
5 稲刈り・脱穀にチャレンジ	
6 収穫祭を開こう	家庭科「食べて元気に」
7 稲作活動を振り返ろう	

3 活動の実際

今年はコロナ禍のため例年通りの活動をすることはできなかったものの、田植えを地域の指導者にお願ひしたり、各活動内容を縮小したりしながら、稲作活動を行った。

(1) 体験活動を軸とした実感を伴った学習活動

堆肥作りや堆肥まき、稲刈り、脱穀、稲架かけなど、米作りの作業をほぼ網羅した多くの活動を経験したことで、より多面的に米作りを捉えることができた。生長の喜びや収穫の嬉しさだけでなく、米作りに携わる多くの人々の思いや願いを受け止めることができたとともに、米作りに関心をもって、主体的に調べ活動やまとめ活動に取り組む姿が見られた。



(2) 地域の方々との触れ合いを通して他者意識を醸成

お世話になった地域の方々を招待した収穫祭では、収穫の喜びを味わい、感謝の気持ちを伝えた。例年のようにできなかった中でも、多くのボランティアの方々の支えがあった稲作活動で学んだことを、参会者と共有することができた。児童にとっては地域、さらに、米作りに対して愛着をもつとともに、お米との関わり方において新たな思いを抱くことができた。



4 成果と課題(今後の取組)

当校の稲作活動は、地域教育プログラムの取組として、多くの地域の方々の協力のもと、長年続いており、地域密着型の学習活動となっている。その中で、地域と学校が一丸となって、児童に身に付けさせたい資質・能力を育んでいる。一方、学習指導要領の改訂やボランティアの方々の高年齢化など、様々な状況を踏まえながら、今後は、地域教育プログラムとしての稲作活動の見直しをしていく必要がある。



1 育むことをめざす資質能力

探究的な見方・考え方を働かせ、ふるさと竹尾に目を向け、様々な人と関わることを通して、自らの課題を見つけ、粘り強く追究し、自分を見つめ、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- ふるさと竹尾の特徴について まち・人・もの・施設等のつながりの関係性に気付く。(知識及び技能)
- 地域の街・人・もの・施設等から問いを見だし、情報を比較したり、関連付けたりする等、目的に合った方法で整理・分析して、まとめ・表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 学習を通じて、自己の地域や対象に対する思いの変容に気付き、自他のよさを生かしながら、進んで地域に働き掛けようとする態度を育てる。(学びに向かう力・人間性等)

2 教育課程への位置づけ・幼小中連携、協働との関連

(1) 教育課程…総合的な学習の時間を中心に探究課題を設定する。

※太字ゴシック部分

3年	4年	5年	6年
地域で菊作りをする人々	地域の防災に取り組む人々	地域できらきらコシヒカリを作る人々	地域のまちづくり過去・現在・未来
日本とつながりのある国々	地域の福祉施設にかかわる人々	竹尾小の伝統と未来	夢に向かって働く地域の人々

(2) 幼小中連携…12年間を見通した生活科・総合的な学習の時間における各園校の教育活動を一覧表(様式2)にまとめ、目指す子どもの姿を実現するための活動を共有する。



3 活動の実際

3年総合的な学習「わたしたちのまちは はなのまち 竹尾」

花卉栽培が盛んな竹尾地区。「菊」の栽培を通して花作りをしている方の思いを知り、地域の担い手として発信をする活動を行った。



最後に作成した「きく新聞」には以下のような資質・能力の育ちが見られた。

自分で菊を育ててみて、水やりやピンチ、いろんなやるべきことがあると気づき、皆川さんに助けてもらったおかげでピンクと黄色のきれいな花が咲いてとてもうれしかった。(知識・技能)(学びに向かう力)

菊を育てて花のきれいさやにおいなど、菊のいいところがあって、ぼくは菊がとっても好きになりました。(学びに向かう力)

4 成果と課題

竹尾地域での活動を進めることで、子どもたちが「ふるさと竹尾」を好きになり誇りをもつことができるような活動ができています。育成した資質能力が中学校でも発揮できるように、中学校区での一層の連携を図りたい。



地域に愛着と誇りをもつ子の育成

学番 1211 新潟市立南中野山小学校

1 育むことを目指す資質能力

「ひと・もの・こと」から学び、ふるさとを愛する心を育て、地域に誇りを持ち、地域に貢献したいという願いをもつ。

2 教育課程への位置づけ、関連

南中野山小学校では以下の活動を教育活動に位置づけて地域について学んでいるが、今年度はコロナ禍により、内容を変更・中止しなくてはならない学年があった。

- 1 年生：生活科「はる・なつ・あき・ふゆ のあそび」→実施
- 2 年生：生活科「町たんけん」→時期を変更して実施。
- 3 年生：社会科「わたしたちのまちはどんなまち」→実施
- 3 年生：総合「ちいき すてき 発見」(地域) →年間計画を変更して実施
- 4 年生：総合「人にやさしく」(福祉) →中止
- 5 年生：総合「米フレンド」(稲作) →内容を縮小して実施
- 6 年生：総合「私・出会い」(キャリア教育) →内容を変更して実施

3 活動の実際

今年度は地域の方とも例年のように触れ合うことができなかったが、子どもたちと地域を元気づけるため力を発揮しているのはPTAであった。その活動を紹介したい。

活動内容

- ・PTA が12月23日～25日の間、校舎にイルミネーションを飾ってくれた。
- ・1日がかりの作業を子どもたちは見守っていた。
- ・デザインから設置までPTAの手作業で行った。

子どもたちは普段が(コロナに関する)きまりを守って頑張っています。子どもたちを元気にしたいと思って、今年は頑張って盛大なイルミネーションにしました。

設置に参加した保護者の声

すごくきれい。見に来てよかった。学校がすごくきれいになった。

見に来た子どもの声

イルミネーションがきれいだからカメラを家から持ってきました。学校が明るくて明るい気持ちになりますね。

地域の方の声

4 成果と課題(今後の取組)

PTA や地域の方は学校の教育活動に協力を惜しまずに力を貸してくださる。昨年までは子どもたちは地域の祭りに参加したり、クリーン作戦に参加したりと、地域の一員としての自覚が育っていた。しかし新型コロナウイルスの影響のため、今年度は子どもは地域の人々と十分に関わる活動ができなかった。そのような状況にあってPTAは地域と学校をつなぐ役割を果たしてくれた。イルミネーションを見に来た子どもと地域の人々とが、そこで会話をし関わりが生まれることで地域の人々に学校や子どもたちが身近な存在であることを思い出させていた。

今後も新型コロナウイルスに対応した教育活動を再構成していことが必要となっていく。また、学校とPTAと地域が協力して子どもを育ていく関係や体制をより一層整えていくことも必要である。今後は上記2で示した今年度工夫して実施した内容をもとに再構成した内容・活動教育計画に位置付けていくことに取り組んでいきたい。

地域の人・こと・ものと積極的につながり、 社会に開かれた学校づくりの推進

1212 江南小学校

1 育むことを目指す資質・能力

- 地域の人・こと・ものに関わる探究的な学習において、課題解決に必要な知識・技能を身に付け、活用することができる。
- 地域の人・こと・ものの中から問いを見だし、友だちとのかかわり合いを通して解決に向けての情報を集め、整理・分析し、まとめ、表現することができる。
- 地域の人・こと・ものを愛し、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自分の考えを広げ、深め、自己の生き方に生かそうとする。

2 教育課程への位置づけ(3年生の例)

- ・総合 「お祭り博士になろう(40時間)」「お祭りを開こう(32時間)」
- ・社会 「私たちのまちと市(17時間)」
- ・体育 「新潟甚句を習おう(3時間)」
- ・学活 「3年生の祭りを開こう(4時間)」

3 活動の実際

- ・ 7月・・・地域で行われている祭りの主催者や実行委員の方をゲストティーチャーとして招き、祭りの歴史や祭りを開催する人たちの願いや祭りに込められた思いを聞く。(総合)
- ・ 7月・・・私たちのまちと市の様子について学ぶ。(社会)
- ・ 10月・・・蒲原祭りや新潟祭りを調べ、地域の祭りとの違いをまとめる。(総合)
- ・ 1月・・・新潟甚句を習う。(体育) 祭りの準備、オリジナル神輿作り。(図工、学級活動)
- ・ 2月・・・自分たちの「お祭り」を計画し、開催する。祭りの様子をまとめ、発信する。(総合、学級活動)

4 成果と課題(今後の取組)

ゲストティーチャーとしてお願いした地域の方々は、実際に地域の祭りを運営している方々である。実例や写真をもとに、具体的な話を聞くことができ、子どもたちも興味津々であった。例年であれば、児童が自分の地域のお祭りに実際に参加することにより、さらに学習を深めることができる。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、地域の祭りや蒲原祭り、新潟祭りは全て中止となってしまった。現在、昨年の情報をもとに調べ学習を進めている状態である。今後、学習したことをもとに、自分たちの祭りを計画し、実行していくが、どこまで学習を深めることができるかが課題である。



(写真は昨年のものです)

地域とともに育てる「たくましく生きる生徒」

2201 東新潟中学校

本校の教育目標である「これからの時代をたくましく生きる生徒」の実現に向け、地域の多様なリソースの恩恵を受けながら教育活動を展開しています。

本稿では、その中の「職場体験」と「地域貢献活動」の2つを紹介します。

職 場 体 験	地 域 貢 献 活 動
1 育むことを目指す資質能力 ①働くことの喜びと厳しさを体験する ②社会生活における大人との関わりを通して自身 の中学生としてのあり方を見つめ直す ③礼儀・マナーの大切さを学び社会性・規範意識を 涵養する	①校地内・校区内の清掃美化活動を通して地域を 大切にすることを育む ②一緒に活動することを通して生徒同士・地域の 方との絆を育む（異学年交流の機会）
2 教育課程への位置づけ	
総合的な学習（2 学年）	学校行事（育成協との連携）
3 活動の実際（令和 2 年度）	
実施時期：9 月下旬の 3 日間 ①5 月～7 月：事前学習（マナー講習等） 受け入れ事業所の決定 ②当日：現地集合で実施し、2 学年部職員が巡回 ③発表：学級毎・事業所ごとで発表	実施時期：1 0 月第 2 土曜日（午前中） ①2 週間前：地区毎にグループ決め 担当職員との打ち合わせ ②当日：異学年でのグループで美化活動 ③実施後：リーダーの感想発表・地域の方の激励
 	 
4 成 果	
コロナ禍により受け入れ体制が整わず、実施が 危ぶまれましたが、2 学年部職員と地域コーディネーターの 尽力で実施できました。学年部による計画的で丁寧な事前学習、 体験先での温かい対応や励まし、生徒各々の発表を通じた振り返りによ って、生徒は、社会生活の体験に留まらず、自身のこれからの生 き方についても大いに学ぶことができました。	前期学校評価における肯定的評価の割合から、多くの生徒が地域 との日常的な関わりをもち、それを通して自己有用感が高まったり、 新たな気づきを得られたりしていることがうかがえます。 ○地域の大人とあいさつしたり、言葉を交わしたりしています…83% ○地域の学校以外の大人からほめられたり、認められたりしてうれ しいと感じます…75%

これらの他にも、防災学習や学校行事、ボランティア活動等、多くの場面で支えられています。今後は、更に一歩進んだ「協働的關係」を構築していきたいです。目指す生徒像を共有し、それぞれの強みを生かした活動体制を整えることです。その蓄積が、学校を核とした地域づくりにもつながると考えます。しかし一方で、活動を進めるにあたっては安全性の確保が最重要課題であり、具体的には新型コロナ対策が挙げられます。今後も活動に制限が加わることが予想されます。そのような中でも、充実した活動にするにはどう工夫できるか、信頼関係を基盤にして連携を図っていきたいと思います。

地域とともに育む防災意識

学番2202 新潟市立山の下中学校

1 育むことを目指す資質能力

- ・生徒の地域防災への意識を高める。
- ・防災教育で学んだことを活用して、地域の一員として協力できる資質を身に付けさせる。
- ・主体的に考え、判断し、地域防災の課題を解決できる態度を育成する。

2 教育課程への位置づけ・関連

- ・昨年度より、2年生の総合的な学習の時間に位置付けて行っている。また、保健体育科の保健分野「傷害の防止」の単元と関連付けて行っている。
- ・今後は、学習内容の系統性を重視し、教育課程に位置付ける。

令和5年から防災教育やまちづくり

⇒1年生:理科の授業「地震のしくみ(ハザードマップ)」

社会の授業「身近な地域の調査→市内巡検」

⇒2年生:防災教室(避難の仕方、心肺蘇生法、避難所開設の知識)

⇒3年生:修学旅行で東北(東日本大震災被災地)に行き、防災教育と街づくりについて学ぶ。

3 活動の実際

○実施期日 令和2年11月18日(水)

○会場 新潟市立山の下中学校体育館

○指導者 東区役所総務課職員 防災士 中地区公民館職員 新潟東消防署員

○参加者 山の下中学校2年生 134名

○体験活動の概要

(1)救命救急

①中学生でどんなことができるか(AED、簡易担架、心肺蘇生法等)【東消防署山の下出張所】

(2)避難所開設

①簡易段ボール避難所設置、感染症対策を踏まえた注意点等 【東区役所総務課】

②新聞スリッパ製作体験 【防災士】

(3)地域自治防災講話

①地域の災害について(ハザードマップ、避難経路、避難場所等) 【東区役所総務課】

②新潟地震のスライド写真をもとにした体験談 【防災士】

4 防災教育の課題と今後の方向性～山の下中学校区学校運営協議会より～

今年度、山の下中学校区は学校運営協議会のモデル校として指定を受け、「地域とともにある学校づくり」を実現するために、これまでに2回の会合を行った。その中で話し合われた内容は、以下の通りである。

課題

子どもが安全に避難するためにどのようにすればよいか。特に親がいないときにどう対応するか。また、地域防災に向けた防災教育をどのように進めていくか。

今後の方向性

- ・地域と共に進めるための方策
- ・親子で危機管理を考える場の設定
- ・将来のリーダーとなり得るジュニアレスキューリーダーの育成

今後できそうな活動

- ・体験活動の充実
- ・地域との合同避難訓練
- ・親子アンケートなど

地域を支える夢と希望をもった生徒の育成

2203 新潟市立大形中学校

1 育むことを目指す資質能力（「総合的な学習」全体計画より）

<知識・技能>

- ・防災など現代的な課題に対応するための知識・技能
- ・働くための知識・技能

<思考力・判断力・表現力>

- ・困難や問題点から自己の集団の課題を設定し、課題解決に向けて取り組み、自分の考えをまとめたり発信したりする力

<学びに向かう力、人間性>

- ・どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るかを考え、目的意識をもって学ぶ態度
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどを発揮しようとする態度

2 教育課程への位置づけ、小中連携、協働との連携

当校においては、地域防災学習を中核におくことで、地域の実情を知ると共に、防災に関する知識を身に付け、地域のためにできることを率先して取り組もうとする生徒の育成を目指している。

3 活動の実際（「地域を知る」活動から）

認知症サポート養成講座（3学年対象）：実施予定

昨年度は、地域包括支援センター木戸・大形の齋藤るり子看護師、足立康彦介護福祉士、星山大社会福祉士、遠山茜社会福祉士の4名を講師として招き、認知症の特徴と行動特性を学ぶ講演会を実施した。講演会では、行動特性をよりわかりやすく伝えるための寸劇やスライドを用いた説明等がなされ、生徒も興味をもって臨むことができた。また、認知症の特徴・特性を理解し、適切に行動することの重要性が述べられ、避難所においても配慮を要するために、中学生の協力が不可欠であるとの説明があった。核家族が増加し、高齢者と日常的に接する機会が少なくなっている現状において、中学生に期待する役割が具体的に述べられたことで、生徒にとって避難所での行動をより具体的に想起できる機会となった。活動の振り返りでは「その高齢者に合わせた対応の必要性を感じた」「中学生は率先して協力しなければならない」等の記述が多く見られ、今後の提案につながる活動となった。

4 成果と課題（今後の取組）

前期学校評価で地域に関する項目の肯定的評価を行う生徒の割合は以下のようなものである。

○地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります。（R1前期：79%→R2前期：80%）

○地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きです。（R1前期：60%→R2前期：65%）

地域に関する項目において、前年度前期よりも肯定的評価する生徒の割合が増えた。地域の方に関わってもらいながら、地域のために学んだ教育課程の成果の一つである。今後は肯定的評価をする生徒を8割以上にするを目指すと共に、地域を学ぶことを通して、生徒の思考力・表現力・判断力等の育成に努めていきたい。



豊かな心を育み、地域とともに共生する生徒の育成

学番 2204 石山中学校

1 育むことを目指す資質能力

石山の子どもたちを一層地域・学校ぐるみで育むために、幼保小中・保護者・地域・行政の代表の方々等関係者が集い、「石山の教育を語る会」を開催し3年目となった。「目指す子ども像」とそれに伴う「育みたい資質能力」を以下のように共有し、コロナ禍で制約のある中、実践を進めている。

生活を楽しみ、これからの時代を創る子ども

- 自己を知り、よりよく生きる態度や能力＜自立＞
- 広い視野から認め合い、支え合い、高め合う態度や能力＜共生＞
- 見通しをもち、課題解決に向かう態度や能力＜挑戦＞

2 教育課程への位置づけ・幼保子ども園・小・中連携、協働との関連

主に、総合的な学習の時間の中で、「防災教育」の領域に位置づけ、地域との協働活動を組織している。

1年 自ら生き抜く力を身につける。（防災に関する技術を身に付ける）

2年 学びを発信・活用する力を身に付ける。（地域の実態とかかわり方を学ぶ）

3年 総合的な学び、実践力を身に付ける。（中学生として何ができるかを学び、実践する。）

特に今年度は、上記とは別に、「語る会」で熟議してきた、地域とともにある取組を実践に移した。

3 活動の実際

（1）全校としての活動

6月「第1回避難訓練」災害時における地域消防団、中学生の役割

※消防団、地域代表の方招聘し、指導・講評をいただく。

10月「第2回避難訓練」全校防災学習

- ・消防団の方を招いて、水害（浸水）時の避難行動（自助）、要支援者への支援行動訓練（共助） ※地域住民（近隣自治会）も参加
- ・信濃川河川事務所の方を招聘：全校防災講演会

（2）中学校区としての取組（小・中連携、地域団体との協働活動）

オリジナル幟のデザインを小・中で募集し、5種類作成。コミ協・育成協と連携し、校区内10カ所で幟を持ち、朝の登校時刻30分間程度、初のあいさつ運動を展開した。コロナ禍の中、心と心をつなぐ、共生する地域につながる第一歩となった。

第1回 9月30日～10月2日、第2回 10月14日～16日

4 成果と課題（今後の取組）

成果としては、新潟市生活・学習意識調査の結果から、当校教育目標「自立」「共生」「挑戦」の視点に関わる項目において、昨年度より肯定的評価が全般的に高まり、「そう思う」と強く評価している割合が高いことが特徴となっている。また、これまで市平均を下回っていた項目が上回る傾向も出てきた。

○「地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりしてうれしいと感じる」

78.7%（R1+4.8%） そう思う（R1+8.8%） ※新潟市平均よりR1+2.2%↑

○「地域のことにふれたり、調べたりする学習が好き」

70.6%（R1+4.7%） そう思う（R1+8.2%）

課題としては、今後持続可能なシステムづくりを行いながら、総合的な学習の時間を核に、教科横断的な視点から多様な実践を累積すること、育てたい資質能力に確かな伸長が見られるか、方法を明確にし検証していく必要がある。



1 育むことを目指す資質・能力

地域と積極的にかかわり、地域を発展させる一員としての自覚と誇りをもつ

2 教育課程への位置づけ、幼小中その他との連携

・総合的な学習の時間との関連

各学年で総合的な学習の時間において地域を題材にした内容を系統的に組織する。

1年生：地域を知る学習、2年生：地域から学ぶ、3年生：地域を語る

・幼小中校園長の定例会議を開催し、幼小中連携で行う事業の方針を検討している。今年度は、コロナ感染症の影響で事業を縮小したが、木戸中学校区クルーン活動は、地域と幼小中とで連携して取り組んでいくことを確認した。

・育成協議会との連携

木戸中学校区クリーン活動を育成協と共催して開催した。

3 活動の実際

(1) 木戸中学校区クリーン活動

・期日：令和2年10月4日（土）朝に実施

・中学生、小学生、保護者、地域住民が参加して自宅から周辺のゴミを拾いながら木戸中学校に集合した。

・生徒は、木戸の地域を知り、地域から学び、地域を語る活動を通して、地域の人とともに自分たちの住む地域の環境を整美することに意義を感じながら、自主的にクリーン活動に参加した。

(2) 総合発表会

・期日：令和2年12月21日（月）

・ねらい：3年生の総合学習3年間のまとめを全校体制で発表することを通して、地域での学びを共有する。

・追求テーマ：「木戸の主産業変遷」、「王瀬長者の屋敷はどこにあった？」、「シン防災計画・木戸版」など特色ある多様なテーマを設定した。現地調査を実施する際は、新潟シティガイドの支援を受けた。

・発表形態：PCプレゼン、紙芝居、寸劇、歌など表現方法を工夫した。



【クリーン活動（地域とともに）】

【総合発表会（全校体制で）】

4 成果と課題（今後の取組）

○以前は、地域から学校に対して負の評価が多く聞かれてきたが、学校と地域との往還する学びや活動から、学校と地域の結びつき、協力体制を構築している。

○クリーン活動では、生徒の自主的な参加や親子で活動に参加するケースなど、参加者の人数の増加、世代の幅が広がっている。

●日常生活から、生徒に地域の一員としての自覚をもたせていきたい。

1 育むことを目指す資質能力

- 地域の人・もの・ことに積極的ににかかわり、他者と協働して問題解決に取り組み、自己のよさに気づく。
- 地域への愛情・愛着をもち、そのよさを伝える。
- 地域の課題について考え、地域の一員として、主体的に行動しようとする。

2 教育課程への位置づけ・幼保子ども園・小・中連携、協働との関連(例年実施しており今年度実施予定であった活動) (総合的な学習の時間)

キャリア教育として、1年生時「福祉体験活動」(1日)、2年生時「職場体験」(2日)、3年生時「職場訪問」(修学旅行時に東京都内で1日)と「上級学校訪問」(1日)を実施している。また、生徒会が地域のためにできることを考え奉仕活動を行う「BS(ベストスクール)活動」(2時間)も行っている。

(特別活動)

地域コミュニティ協議会と小中学校共催という形で、地域防災訓練(半日)を実施している。

(課外活動)

小・中・地域連携の活動として、地域・保護者代表と小中学生代表、小中学校職員代表で、「未来づくり委員会」と称し、地域の課題と課題解決の方策を話し合う場(1回90分)を年2回設定している。また、「あいさつ運動」を年2回実施している。

3 活動の実際

【1年生 福祉体験活動】例年、3～5人のグループで地域の福祉施設50箇所程を訪問し、幼児やお年寄り、障害者の方のお世話やお手伝いをさせていただいている。今年度は中止。

【2年生 職場体験】例年、2～4人のグループで、60箇所程の事業所に分かれて、職業体験をさせていただいている。今年度は中止。

【3年生 都内の職場訪問】例年、3～5人のグループで、都内20箇所程の事業所を訪問している。全国的にも有名な企業への訪問は、生徒たちの視野を広げる貴重な体験となっている。今年度は中止。

【3年生 上級学校訪問】例年、4～6人のグループで、25箇所程の専門学校や大学を訪問している。今年度は中止。

【BS活動】例年、体育祭の連合チームを基に、1～3年生の縦割りの35班程に分かれて、地域のゴミ拾いや草取り、公園遊具の清掃等を行っている。活動場所や内容は、3年生が事前学習で下見をして考えている。3年生は縦割り班のリーダーとして働くことで、最上級生としての自覚の高まりにも繋がっている。今年度は中止。

【地域防災訓練】例年、地域コミュニティ協議会が企画運営する防災訓練に、小中学生も地域の一員として参加し、1次避難と2次避難を体験している。2次避難で各学校に避難した後、小学生は津波避難訓練を体験したり、中学生は地域消防団の方からAEDや車椅子の使い方、応急担架の作り方などの救急法についての講義を受けたりする。今年度は中止。

【未来づくり委員会】毎年2回の予定で開催している。地域・保護者代表と小中学生代表、小中学校職員代表で、地域の課題と課題解決の方策を話し合い、できることから実践するようにしている。今年度は1回、3月に実施する予定である。

【地域と小中学校合同あいさつ運動】一昨年度の「未来づくり委員会」で話し合いを行い、昨年度より、各自治会・学校にあいさつ運動ののぼり旗を配付したり、年1回を2回に増やしたり、中学生が小学校に出向いて行ったりというように、活動内容を充実させた。今年度は6月と10月に実施した。



4 成果と課題

各活動とも、地域・小学校との連携・協力のもと、当校生徒たちに育みたい資質能力の育成に大きな効果を上げている。今年度はほとんどの活動が実施できなく、来年度は1年のブランクが空いてしまうが、せっかく継続・充実させてきた有意義な活動であるので、確実に実施をしていきたい。しかし、行事の精選や働き方改革等の観点から、内容について精査をして持続可能な活動としていかなければいけないという課題もある。職員、地域・保護者、学区内小学校とよく相談しながら、課題解決を図っていきたい。

地域から学び、地域や社会とのかかわりを豊かにする生徒の育成

2208 下山中学校

1 育むことを目指す資質能力

① 課題に関わる概念の形成【知識及び技能】

ア 課題・目標の設定に必要な知識・技能を獲得する力

イ 目的に応じて手段を選び必要な情報を獲得する力

② 実社会から問いを見出し、課題を解決する力【思考・判断・表現力等】

ア 課題の設定 イ 情報の収集 ウ 整理・分析 エ まとめ・表現

③ 積極的に社会に参画しようとする態度【学びに向かう力、人間性等】

ア 他者や社会との関わりに関する力のこと イ 自分自身に関する力のこと

・課題解決・目標達成のために必要な活動を協働的に実行・推進する態度

・学習を通して人との関わりを豊かなものにし、集団や社会の形成者であることを自覚して行動する態度

2 教育課程への位置づけ

① 1学年総合（14時間）地域連携「下山地域を知る」～下山地域を巡る校外学習～

下山郷土史研究会の協力を得ながら、自分たちの住む地域の歴史について調べ、歴史にゆかりのある場所を班別で歩いて巡る中で学びを深めた。

② 2学年総合（38時間）地域連携

「下山地域と新潟市の比較」～新潟まち歩き～

フィールドワークや体験的活動によって、新潟市の歴史・文化やそれぞれの特色・価値等の理解を深めた。

「他地域との比較」～関西への修学旅行～

これまで学んできた下山地域や新潟市と関西地域を比べながら、歴史・文化についての調査とフィールドワークや体験的活動によって、それぞれの特色・価値等の理解を深める。

③ 3学年総合（7時間）「防災と地域貢献」～防災学習における自治会長との協議～

地域の自治会長（防災担当者）を招き、避難所における中学生の役割をとともに考える活動を通して、中学生も地域の一員であることを認識し、地域社会の形成者としての自己の役割に自覚をもつことができた。

3 活動の実際（紙幅の関係で、今年度初めて取り組んだ上記2①の学習活動について紹介する）

学年職員と下山郷土史研究会が話し合いながら、生徒の主体的な学びを促す学習プログラムを考案し実施した。生徒はただ漠然と地域の歴史等を調べるのではなく、得た知識を班の仲間に分かりやすく伝えることを目標に設定した。生徒が何に興味を持ち、どこを調べたいのかについても生徒自身が考え、整理しやすいよう記入シートを作成し行った。これにより、生徒は自分で調べても分からないことを研究会へ質問できるようにした。50問もの質問が出されたが一つ一つ丁寧に返答して頂き、10月下旬に下山地域を巡るフィールドワークに出かけた。当日は班ごとで、研究会がガイドとして待つチェックポイントを巡った。発見した地域の魅力について、生徒は一人一枚のポスターとしてまとめ、下山コミュニティハウスに展示し、保護者や地域に発信した。

4 成果と課題（今後の取組）

地域の方とのかかわり合いながら学ぶ体験的な学習の機会の設定と充実を図った。今年度は特に1学年で「地域を知る学習」として、下山郷土史研究会の協力を得て「下山地域を巡る校外学習」を取り入れた。学習のまとめとして「私が伝えたい下山の歴史や見どころ」ということで一人一枚ポスターにまとめ、保護者や地域の方に見ていただく機会をもった。発信することで対話のきっかけになり、学びが深まると感じた。

今後もさらに、より地域とのかかわりを深めながら、生徒の学びの場やその学びの過程をさらに工夫していく。